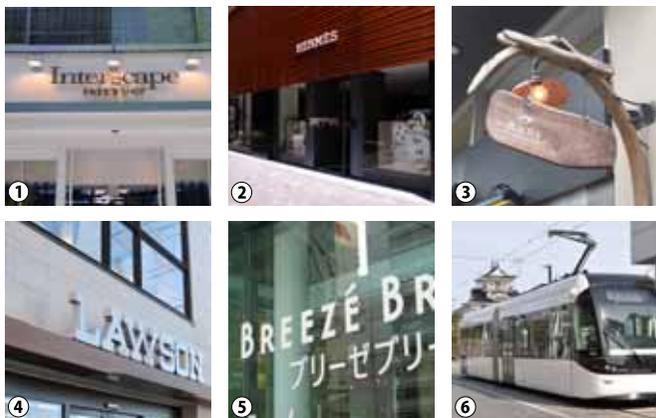




【4】建物の形や特徴を生かす
 屋外広告物にはさまざまな種類があり、建物に直接取り付けられるものも多くあります。このような屋外広告物は建物の形に調和させて、ファサードを乱雑に見せないことが重要です。例えば建築外装を地とする切文字を使った表記は、まち並みとして見たとき、すっきりした印象が生まれます。

壁面を看板の地として生かしている(宮城)
 庇を広告面としすっきりとした印象(大阪)
 切文字による壁面を生かした表記(東京)
 茅葺の建物に合うのれんとちょうちん(静岡)
 複数の店舗の表示を一ヶ所に集約(茨城)
 壁面の素材感を生かしたシンプルな広告(大阪)



【5】質が高いデザインを考える
 現代の屋外広告物はさまざまな技術や技法が開発され、多様なデザインがまちにあふれています。一方、都市部では相互の関係性を整え、過剰な主張をおさえることで地域やブランドのイメージ向上に寄与している例も見られます。シンプルで質が高い広告・看板の表現を考えることも大切です。

シンプルかつ見やすい店舗表示(大阪)
 ロゴは小さいが印象的なブティック(大阪)
 まちの雰囲気に合わせて素材使い(鎌倉)
 まちのイメージに合わせたロゴの表現(東京)
 ガラス面に白が映える深い表記(北海道)
 背景の城と同様明暗の対比が印象的なLRT(富山)



【6】歩行者の目線や心理を考える
 都市の屋外広告物は、なるべく多くの人達から見られるように巨大化し、高い位置に設置されています。中心市街地等では大型の屋外広告物が都市の活性化に寄与することもあります。山梨のような眺望や自然景観を生かすべきまちでは、歩行者の目線に合わせ、低い位置での賑わいの演出心がけましょう。

色ではなく絵が歩行者の目を惹き付ける(埼玉)
 魅力的なディスプレイが人を引き寄せる(埼玉)
 風にゆれる品の良いデザインのバナー(大阪)
 まちに彩りを与える市場(長野)
 市場が立つときのみ出される鮮やかなバナー(長野)
 SALE表示も季節感を表す要素の一つ(東京)



山梨の景観広告
 美しい県土づくりをめざして

魅力ある広告で美しいまち並みをつくる

派手で主張の強い表現が用いられることの多い屋外広告物は、落ち着いた地域の景観の阻害要因となる場合もあります。豊かな自然に恵まれた山梨の特徴を生かし、まち並みとの調和や地域の魅力の向上に貢献する広告景観の形成は、観光客に“またこの地を訪りたい”という気持ちをおこさせます。こうしたリピーターの増加は地域の活性化のみならず、広告主の利益にもつながります。

多くの人に親しまれ、誇りを感じていただける山梨らしく美しいまち並みを形成していくために、県民・事業者・行政が協力し合い、魅力ある広告のデザインを考えることが今こそ求められています。

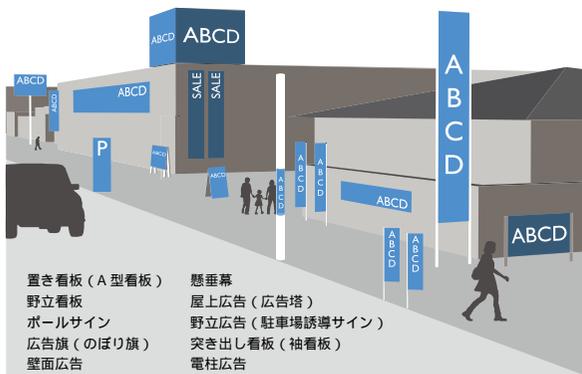
屋外広告物の種類と特性

右の図は屋外広告物の主な種類を示しています。一つの店舗や建物についてさまざまな広告表現が可能です。地域によっては総量の規制や禁止事項が定められています。

屋外広告物は目立つことが重要と考えられているため、人の目を引く鮮やかな色彩や沢山の色を無意識に使用したものが多く見られます。

さらに著しく巨大な看板等の乱立により景観が混乱し、個々の識別性が低下したりや交通標識が見にくくなる等、まちとしての魅力が損なわれている例も少なくありません。

豊かな自然に恵まれた山梨では、設置する環境や周囲の建物等との調和に配慮し、にぎわいと落ち着きのバランスのとれた景観を形成することが求められます。



山梨らしい魅力ある広告景観を形成するために～6つの配慮事項



【1】豊かな自然を生かす

店舗の広告・看板は自己主張だけでなく、周辺の景観と調和し、地域全体の景観の質を向上させることが大切です。

地域の資源である自然の緑を生かし、四季折々の景観の変化が楽しめるように工夫しましょう。

近年は歩道に植えられた街路樹や遠くに見える山々を背景として生かす洒落た店舗デザインも多く見かけるようになりました。

山梨の美しい自然に映える新しい広告・看板をつくり、個々の店舗からまち全体の魅力をアピールしていきましょう。



サクラの木を生かしたカフェ (東京)
 丘の風景に調和し景色を楽しめるカフェ (富山)
 周辺との一体感を形成する屋上緑化 (大阪)
 プランター・バナーが一体化された街路灯 (東京)
 並木の緑が印象的なまち並み (東京)
 木立に囲まれたカフェ (神奈川)
 壁面緑化を展開したブティック (神奈川)
 看板の固定に利用されるプランター (東京)
 ナチュラルな木製看板に映える季節の草花 (長野)



【2】まちの特徴を生かす

まち並みには地域毎の個性があります。地域で商いをするお店は、その個性を守り育て、地域と共存していくことが大切です。

そのためには地域の特徴を読み取り、その場所にあった広告・看板をデザインしなければなりません。

目立つだけの派手な広告は避け、地域の住民が自慢しなくなるような、あるいは世界中から訪れる観光客が山梨をまた訪れたいと感じるような、まちの特徴を生かした看板・広告のデザインを心がけましょう。

歴史を大切にしたい趣のある木製看板 (静岡)
 伝建地区の雰囲気合わせた看板 (埼玉)
 伝建地区のまち並みを演出する看板 (埼玉)
 和のまち並みに合わせた自販機 (三重)
 突出看板や屋上広告を制限したオフィス街 (大阪)
 白基調の海辺のまち並みに合わせた看板 (横浜)
 白基調の海辺のまち並みに合わせた看板 (湘南)
 洗練されたブティックが並ぶ界隈 (大阪)

伝建地区とは歴史的な建物やまち並み、また、それらと一体となっている環境を保存するために、都市計画で定めた地区のことです。



【3】風情ある和の様式を生かす

日本には長い歴史の中で育まれてきた品の良い広告・看板が沢山あります。現代では新しい技術が開発され、斬新で多様な広告表現が可能になりましたが、人工的な印象が強くなる日本のまち並みに合わないものも少なくありません。

これまでに蓄えてきた伝統的な和の表現や山梨のもてなしの心を大切に、さらに現代の建築やまちのデザインにも合う、新しい和の表現方法を工夫することが必要です。

このような和を意識した広告・看板は、特に海外からの観光客に高い評価を得られることでしょう。

統一的な宿坊の看板 (群馬)
 力強い文字が書かれたのれん (京都)
 趣きある木格子に調和した店舗表示 (京都)
 白地に墨文字の老舗ののれん (東京)
 店舗名の頭文字が象徴的に記された行灯 (東京)
 商家の風格を感じさせる白壁とのれん (福岡)
 風に揺れ視線を誘うのれん (富山)
 時と共に味わいを増す天然木の看板 (富山)
 和モダンな店構えのイタリアンレストラン (東京)